

PRAEVIDENTIA DAILY (10月14日)

昨日までの世界：株安とドル全面安、ドル/円 106 円台達成

昨日は日米休場で材料は少なく、米中長期債利回りも動いていないが、週末のFRB理事らのハト派発言(Fischer副議長、Tarullo理事、世界経済の予想以上の減速で利上げ遅延の可能性を示唆)を受けて、アジア時間早朝からドルが対主要通貨で下落、ドル/円は107円丁度近辺へ下落したほか、ユーロ、ポンド、豪ドル、NZドルなどの対米ドル相場は反発した。その後欧州時間にかけては横ばい状態となったが、NY時間の引け間際に米株価(米休日だが取引は行われている)が急落すると、ドルが対円、対ユーロで続落し、ドル/円は106.73円、ユーロ/ドルは週末の1.26ドル丁度近辺から1.2768ドルへ大きく続伸し、当社が主張してきた106円台への調整が現実のものとなった(8日付ロイターコラム「[米利上げ期待の落とし穴、ドル106円に下落も](#)」を参照)。

他方、豪ドルやNZドルは、米株安が下押し圧力となったとみられ対米ドルで上昇できず、ドル/円が下落したことから対円で下落する展開となった。この間、中国の9月輸出入統計は前年比で各々+15.3%、+7.1%といずれも市場予想を大きく上回ったが、中国の貿易統計は貿易外の取引が多く含まれており、それに対する当局の規制などの動きから実体経済の変化を反映していない部分が多いことから、市場の世界経済減速懸念を払拭する材料にはならなかった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.8	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	-1.6	+0.0	-0.2	-2.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+1.0	+0.01	+0.01	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.0	-1.6	-2.3	+0.02
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	+0.0	-0.04	-0.04	+0.00	-0.05	-0.05	+0.00	+0.4	-1.6		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+1.0	-0.02	-0.02	+0.00	-0.04	-0.04	+0.00	-1.6	-0.4	+0.4	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+1.0	-0.03	-0.03	+0.00	-0.05	-0.05	+0.00	-1.6	-0.4	+0.4	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.0	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	+0.00	-1.6	-0.2	+0.4	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：ドイツ発の世界景気減速は広がるか

きょうの注目通貨：EUR↓、USD/JPY↓

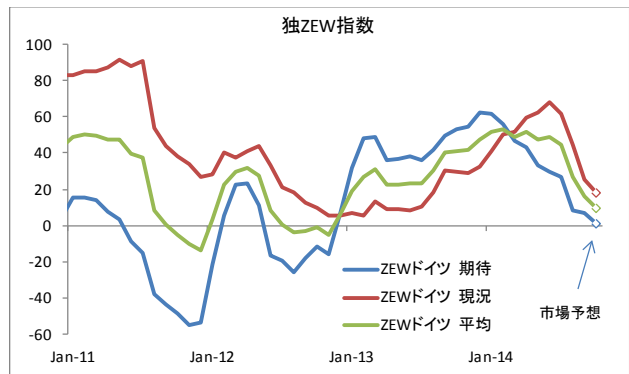
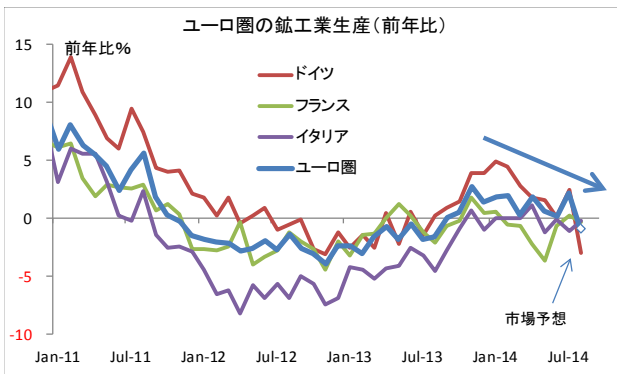
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
本邦9月企業物価指数・前年比	8:50	+3.9%	+3.6%	
豪9月NAB企業景況感	9:30	3.5		悪化だと2か月連続
同企業信頼感		8.0		悪化だと2か月連続
英CPI前年比	17:30	+1.5%	+1.4%	低下だと3か月連続
ユーロ圏8月鉱工業生産・前月比	18:00	+1.0%	-1.6%	
同前年比		+2.2%	-0.9%	
ドイツ10月ZEW期待指数	18:00	6.9	1.0	

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日も引き続き、世界的な株安を受けた豪ドルやNZドルへの下押し圧力と、米国の利上げ開始早期化期待の後退による米中長期債利回りの低下を受けたドル/円の下押し圧力が続きそうだ。但し、昨日は米ドル安という要素が加わっており、豪ドルやNZドルが対米ドルで下がりにくくなる場合があることが示されたことから、クロス円よりも株安と米利上げ期待の後退の両方に下落で同方向に反応し易いドル/円の方がクロス円よりも

取引し易いだろう。

ユーロ圏ではユーロ圏分 8 月鉱工業生産とドイツ ZEW 期待指数が発表される。ユーロ圏景気を巡っては、既に景況感指数のピークアウトが ECB の追加緩和に繋がっているが、今月入り後は意味合いが変化してきており、7 日に発表されたドイツ鉱工業生産の大幅下落・予想比下振れはユーロ圏だけでなく世界経済全体の減速懸念に繋がり、世界株安の一因となってきている。また、Fed が世界景気の減速も懸念していることから、ドイツ景気の減速は米利上げ開始を遅らせる一因にもなっており、ドル/円の下押し材料となっている。その意味で、既に悪化はある程度織り込まれておりユーロ圏分も前月比-1.6%、前年比でも-0.9%と大幅下落が予想されてはいるが（下図を参照）、市場予想を下回るようだ**と更なる株安と米中長期債利回りの低下に繋がり、ユーロとドル/円の続落に繋がりそう**だ。ドイツ ZEW 期待指数も更なる悪化が予想されているが、ユーロ圏の 10 月分景況感指数の中で最初に発表されるため、今後発表される PMI、ドイツ Ifo などの先行指標として注目度が高い。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。  
 当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。  
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社  
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号  
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641